

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と 65 歳まで働ける職場を！

融合化・組織再編攻撃に 職場から反対の声あげよう

○業務融合化・組織再編攻撃の経過

- 2018/2 会社が東労組に「労使共同宣言失効」通告
- 2018/5 乗務員勤務制度改悪（支社課員の乗務等）提案
- 2018/7 「変革2027」発表
- 2019/3 乗務員勤務制度改悪（支社課員の乗務等）強行
- 2019/3 運転士・車掌職名廃止、ジョブローテーション提案
- 2019/7 「ミライの車両S&E構創」
- 2020/4 運転士・車掌職名廃止、ジョブローテーション開始
- 2021/5 現業部門の職名全廃、統括センター化提案
- 2021/12 組織再編（車両センターの首都圏本部、東北本部、新潟支社所属化、企画部門再編）提案
- 2022/3 現業部門の職名全廃、統括センター化開始
- 2022/8 深澤社長「鉄道部門4千人削減」「グループ内転籍や副業促進」方針発表
- 2022/10 現業機関・支社再編開始
- 2023/3 乗務員行路内に「その他時間」設定
- 2023/6 幕張・京葉車両センターの首都圏本部化
- 2023/7 全駅の（営業）統括センター化

⇒会社は「さらに業務集約や体制見直しを進める」と宣言

これまでの攻撃は、「鉄道ありきで考えるな」「これからは価値創造だ」といって現場労働者の誇りを奪い、労働者同士を競争に駆り立てて分断していくものでした。会社の攻撃を貫徹するためには、職場から労働組合と現場労働者の団結を一掃しなければならぬからです。

黙っていれば会社の攻撃はエスカレートします。団結して声をあげれば攻撃を打ち破る展望が切り開かれます。動労千葉とともに職場から声を上げ、攻撃にたちあがろう。

さらなる攻撃の重大な転換点

この間、会社は業務融合化・組織再編の攻撃を激しくかけてきています。6月の車両センターの首都圏本部所属化、7月の千葉支社管内全駅の（営業）統括センター化はさらなる大再編攻撃の出発となる重大な転換点です。

会社は組織再編を「発足以来、最大の変革」と位置づけ、「会社・系統・組織（職場）・仕事」の垣根を越えた業務や企画部門の業務等を柔軟

攻撃は矛盾に満ちている

に担える仕組みを構築」するとしてきました。目的は深澤社長自身が明言しているように、「鉄道部門4千人削減」「転籍・副業促進」です。さらなる融合化や全面的ワンマン化の攻撃、全鉄道業務の外注化、分社化・転籍、グループ会社再編に突き進む攻撃が狙われています。

しかし、鉄道の安全を守っている各系統の専門的な技術・経験、現場労働者を徹底的にないがしろにする攻撃は矛盾に満ちています。